

3つのポリシーに基づいた学修者本位の教育の実現に向けて、学部教学マネジメントに関する以下の観点について各学部で計画・実行・検証し、次年度以降の改善に繋げることとする。

1. 学部における教学マネジメントの組織体制

本学部カリキュラム委員会は、学部長、副学部長、学科主任（2名）、学科教務（2名）で構成されている。学部における教学マネジメントについても、このカリキュラム委員会の構成員で行う体制としている。

2. 体系的かつ組織的な教育課程の編成・実施を支える各ツールの課題およびその改善に向けた今年度の取り組み

課題

①カリキュラムマップ

昨年度に引き続き、学部全教員がカリキュラム改革を推進する体制を整えるため、学部公開授業と学部 FD ワークショップを開催し、学部カリキュラムマップとアセスメントプランについての理解を深める。

②シラバス

引き続き、シラバスチェックなどを通じて、内容の精査を行い、シラバス内容の改善を行う。

③その他（カリキュラムツリー、ナンバリング等）

特になし

今年度の取り組み

学部公開授業と FD ワークショップを通じて、学部全教員の理解向上を促しているが、一度の開催では完全な意識の共有まではできていない。継続して、カリキュラムマップ、カリキュラムツリーについて、学部全教員で考えていく機会をもつことが必要である。また、非常勤講師に対しても、これらについて理解いただけるよう、様々な機会への参加を促す。

3. 学修成果・教育成果の把握・可視化に向けた今年度の取り組み

課題

学部共通の基盤科目である「物質生物化学」「代謝生物化学」「分子生物学」「細胞生物学」の4科目は学部の中心となる学びであり、今後、その教育成果について、各学科の特徴を理解しつつ、学部の基盤科目としての位置づけを検証する必要がある。

今年度の取り組み

学部共通基盤科目である「物質生物化学」「代謝生物化学」「分子生物学」「細胞生物学」の4科目について、両学科における合格率、成績分布などのデータを取得し、それらに基づき、学部共通基盤科目の位置づけ、今後の改善に役立てる。具体的な計画として、学部公開授業と FD ワークショップで、これらのデータと今後のあり方を議論する予定である。

4. 授業科目の到達目標の達成状況および学生の資質・能力の修得状況から明らかになっている課題およびその改善に向けた今年度の取り組み

課題

授業科目のシラバスに書かれた「授業の到達目標」の達成ができていないか検討を行う必要がある。

今年度の取り組み	
成績分布データなどの解析を行い、各科目のシラバスに記載された「授業の到達目標」を実現できているか、学部 FD ワークショップ、学部教学マネジメント会議にて議論する。	
アセスメントプランの取り組み	
アセスメント科目名	検証方法（在学時）
学部共通基盤科目 「物質生物化学」 「代謝生物化学」 「分子生物学」 「細胞生物学」	☐ 外部アセスメントテスト（GPS アカデミック） ☐ 学習成果実感調査 ☒ GPA ☐ 在学生調査（在学生生活に関するアンケート）
学科専門基盤科目 「先端生命科学特別研究 2」（先端生命科学科） 「生命科学プロジェクト研究 2」（先端生命科学科） 「産業生命科学特別研究 2」（産業生命科学科）	検証方法（卒業時） ☐ 卒業研究・卒業論文 ☐ GPA ☐ 卒業時調査（4 年次生調査） ☐ ☐
取り組み内容（「8 つの資質・能力」の達成方法など）	
アセスメント科目のうち、まずは学部共通基盤科目 4 科目について GPA を用いた成績分布データの精査から、「授業の到達目標」の達成ができているか検討していく。	
その他	
特になし	

※この内容は 2024（令和 6）年度以降、本学における教学マネジメントの一環として、本学 HP への掲載を検討します。